

地球温暖化説

総合目次 [PDF](#) [HTML](#)

※重複している説明がありますので、その内に修正します

全般

外と内では温度が違いますし、日向と日陰でも気温は変わるのに、なぜか「公式気温」が出てきません。

短い期間で増加が見られるから気温上昇が永遠に続く、と迫りたいようですが、寒冷期と温暖期が繰り返される話が出てこないのはなぜでしょう。

氷は温度が 0度になると溶けますので、0度を下回るなら溶けません。溶ければ氷の表面がツルツルと艶を見せるのは実生活でわかりますから、崩れ落ちる氷山がガサガサ（艶なし）なら、崩れた原因は、（よく言われる）気温上昇ではないのです。

大昔はたくさん二酸化炭素があったので植物がよく育ちましたが、現在は二酸化炭素が少ないので、植物は二酸化炭素欠乏に苦しんでいます^[1]。

ハウス栽培におけるビニールハウス内では、「ダメ」と言われている「二酸化炭素」が充填されているのに問題視されません。二酸化炭素がたくさんあれば、農作物はたくさん生産され、食糧危機も回避できます。

人間の体を構築する成分の 18% は炭素ですから^[2]、「二酸化炭素はダメ。だから炭素もダメ」なら、人間の存在も否定することになります。植物にも炭素成分が含まれています^[2]。

植物が枯れれば、吸い込んだ二酸化炭素をすべて排出しますので、植物を植えても二酸化炭素を減らす効果はありませんし^[3]、減らす必要もありません。

「人類が放出している二酸化炭素の量は年間約330億トン^[4]」ばかり強調されますが、大気中に占める二酸化炭素の割合は 0.038%^[4]に過ぎません。

人間が活動すればするほど二酸化炭素は排出されますので、二酸化炭素を排出しなくなければ、経済活動、人の輸送、オンライン会議、取材、テレビ放送、新聞紙の印刷、ポスター印刷、広報活動、「二酸化炭素の排出量を減らすための会議」も何もしない方がいいのです。

二酸化炭素が世界から無くなりそうになった時、人は木材を燃やすなどして二酸化炭素を生産します。植物には、生産した二酸化炭素を使って光合成をしてもらい、光合成で生成された酸素を吸って人は生きるのです。

人は植物がなければ生きていけませんので、植物が生きていけるように環境を守り、植物が光合成をする際に必要な二酸化炭素を無くしてはいけません。

「現実」とはその場所やあなたの周りのことですので、映像に現実が収録されていても、映像は現実ではありません。

破壊された環境が画面に流されるから「環境が破壊されている」と思うなら、緑が生え茂っている様子が画面に映されれば「環境が保全されている」ということになり、主体性がありません。画面に踊らされないようにすることです（当サイトも「画面」ですので、この話を鵜呑みにせず、参考文献等を確認してご自身の頭で考えることです。自分の意思がない人はず～と騙されます）。

光合成

植物が光合成によって生産した炭素は、植物の体の一部になりますが、新陳代謝によって劣化し、その内に剥がれ落ちて、炭素は酸化し二酸化炭素になって放出されます。

植物が死ぬと全体が腐敗して酸化し、二酸化炭素を放出するので、植物が活着している間に少しずつ放出する二酸化炭素と、植物が死んでから放出される二酸化炭素の合計は、植物が今までに吸い込んだ二酸化炭素の量と同じになり、長期的に見ると、植物を植えても二酸化炭素を減らす効果はありません。

植物が吸い込んだ二酸化炭素は、炭素となって植物の体になりますので、例えば木製タンス（炭素）のまま維持すれば二酸化炭素は減りますが、形を変えているだけなので、木製タンスを焼却すれば二酸化炭素は放出されます。

自然界の元素と総量は変わらない、ということです。もし変わるなら、世界は維持できません。

地球

環境破壊が進んでも地球表面が変わるだけです。人間が住めない場所になったとしても、地球には変わりがありません（地球は巨大なので、表面は全体の極一部に過ぎない）。

「地球のため」や「地球を守ろう」といわれますが、火山が噴火して噴煙が世界に立ち込めたり、溶岩があちこちでドロドロ流れたり、海水が干上がって海がなくなったり、陸がすべて海の底に沈んだり、陸がすべて砂漠になったり、雨ばかり降るようになったり、砂嵐が吹くばかりになったり、巨大動物が我が物顔でかつ歩したり、大きな植物が地表を覆ったり、大気が無くなったとしても、地球であることには変わりがないのです（地球の定義が示されない）。

「地球を守る」は「地球環境を守る」という意味で、地球環境を守る理由は「人が生きるため」です。地球のためではありません（「地球」は地球自体、「地球環境」は人が住んでいる地球表面）。

「地球が悲しんでいる」は、単にその人がそう思っているだけで、「溶岩が世界中で流れて何が悪い？人の営みなんか関係ない」と地球は思っているかも知れず、実際のところは誰にもわからないのです。

個人がどのような感想を持つかは自由ですが、個人の感想が人の行動を強要する正当な理由にはなりません。

媒体

日照りで水不足の映像を眺めて地球温暖化を思うなら、大雪が降り積もる映像を観れば地球寒冷化を思うことになります。受け取った印象が正しい保証はありません。

結論

地球温暖化説が正しいのか間違っているのかは分かりませんが、地球温暖化対策と言われる行為の中身は間違ってます。

参考にした文献

- [1] 『「気候変動・脱炭素」14のウソ』 p13 著者渡辺正
- [2] 「世界は何からできている？元素がわかる事典 発見の歴史から特徴・用途まで」 p26,27,58,59 監修宮村一夫
- [4] 「図解でわかる14歳から知る気候変動」 p22,23 著インフォビジュアル研究所

参考にしたウェブサイト

- [3] 植物を植えてもCO2は減らせないって、知っていましたか!?(更科 功) | ブルーボックス | 講談社 (3/4)
<https://gendai.media/articles/-/48168?page=3> (参照日 2024-12-20)

最終更新日 2026-06-10

[まこと](#)